

# Salon

Vol.104 2016年9月 秋号



ホール3Fアーティストラウンジ内壁画 ポール・ゴッアマン作「馬とヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 須川 展也
- 03 Phoenix Presents — 伊東信宏 企画・構成 レクチャーコンサート  
05 Pick Up クルターグ・テント 『遊び』をめぐって
- 06 Phoenix Spot
- 07 Essay de say — アンサンブルと私、そしてザ・フェニックスホールのこと 藤井 快哉



## レパートリー開拓へ新作委嘱重ね30年余 世界的サクソフォン奏者 須川展也さん

日本サクソフォン界の「顔」として圧倒的な知名度を誇る名手、須川展也さん。ソロ、室内楽、オーケストラや吹奏楽団での傑出した演奏を国内外で重ねる一方、指揮者や教育者としても活動。またドラマやコマーシャルの音楽演奏などテレビでの活躍も通じ、多くの人々に親しまれている。須川さんにとってサクソフォンは「人間そのもの」を表現し、掛け替えのない感動と感激を聴衆との間に共有するための「器」。そんな楽器の魅力の向上とレパートリー拡大を目指し、学生時代から身銭を切って世界の優れた作曲家に新作委嘱を続けてもきた。11月のフェニックス公演はそんな「草分け」の、真摯な歩みを示す直球勝負のリサイタル。インタビューに応える言葉一つひとつに、サクソフォンとその音楽に込める深い愛情が感じられた。

(取材・構成/谷本 裕=沖縄県立芸術大学教授)

### すがわ・のぶや

日本が世界に誇るサクソフォン奏者。東京藝術大学卒業。第51回日本音楽コンクール、第1回日本管打楽器コンクール最高位受賞。出光音楽賞、村松賞を受賞。1998年JT音楽家シリーズのテレビCMに出演、2002年NHK連続テレビ小説「さくら」のテーマ曲を演奏。高名な作曲家への委嘱を積極的に行っており、その作品の多くがクラシック音楽の世界におけるサクソフォンの主要レパートリーとして国際的に広まっている。89年から10年まで東京佼成ウインドオーケストラ・コンサートマスターを務めた。最新CDは15年発売の「Blue Rondo」。トルヴェール・クワルテットのメンバー、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者、静岡市清水文化会館音楽アドバイザー&マリナー・ウインズ音楽監督。東京藝大招聘教授、京都市立芸術大学客員教授。

### 来聴者と合奏イベントも

「須川展也 サクソフォンアドベンチャー」は2016年11月26日(土)午後2時開演。ピアノは、須川さんはじめ、さまざまな器楽奏者と内外で共演を重ねている小柳美奈子。入場料は、一般4,000円(友の会3,600円)、学生1,000円(限定数)。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06・6363・7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。終演後、この公演にご来聴のサクソフォン奏者(プロ・アマ不問)が、須川さんと合奏を楽しめる「アフター・イベント」がある。年齢制限なし。定員30人(申込先着順:7月11日より受付中。定員に達している場合もございます)。詳しくは同ホール(06・6363・0211)。

■プログラム チック・コリア:アルト・サクソフォンとピアノのためのソナタ「Florida to Tokyo」(※須川展也委嘱/大阪初演)、吉松隆:サイバーバード協奏曲(ピアノ・リダクション版)、ファジル・サイ:組曲~アルト・サクソフォンとピアノのための 作品55 ほか(予定)

# 「人間そのもの」伝えたい

S Nobuya  
Sugawa

最初に習った楽器はフルートだったそうですね。どうしてサクソフォンの道に？

浜松の中学に入って間もない頃、音楽の授業でフランスの作曲家ビゼーの組曲『アルルの女』をレコードで聴かせてもらったんです。スピーカーから流れきたサクソフォンの音色が、全ての始まりでした。

あの組曲は、フルートの名曲「メヌエット」が有名なのでは。

それよりも私は「前奏曲」に出てくるサクソフォンにすっかり魅了されてしまったんです。天から降ってくるような、美しい透明な音。衝撃でした。組曲の中の「間奏曲」も聴いてさらに感激は広がり、「メヌエット」やほかの曲でも、サクソフォンの奏でる対旋律(\*1)がスゴいと思いました。出会いを機にサクソフォンを専門に学び始め、今に至っています。

サクソフォンは今、吹奏楽を志す少年少女に最も人気の高い楽器の一つ。社会人にも嗜む人が増え、リサイタルも少なくない。管楽器の「花形」として既に定着しているように思われますが、須川さんが活動を始められた頃、この楽器の「認知度」は、どのような状況でしたか。

東京藝大を卒業した1980年代半ばは、「ジャズなら分かるんだけど、サクソフォンってクラシックにも在るの？」という認識が一般的。クラシックの分野での認知度はまだまだ低く、ソロ楽器としての地位も確立されていませんでした。もちろん演奏家として活動をしていくのは今でも、どの楽器でも、本当に大変です。スポーツ選手と似ています。コンクールで優勝するなど、学生時代に実績は積んでいたけれど、大学卒業当時は、仕事らしきものも無い状態。どうやって食べていけば良いのか不安でした。それでもとにかく、どうしてもサクソフォンの演奏家として生活したい、と強く思っていました。

そんな思いを持ち得たのは、なぜ？

サクソフォンの魅力を多くの人に伝えたい、子どもの頃、打たれるような感動を覚えたあの美しい音を伝えたい。単純に、そう思っていました。この楽器が表すのは、美しさや楽しさに留まらない。激しさ、怖さ、そして儂さなど幅広い「人間そのもの」の心の動きを表現できるはず。その魅力を、多くの聴衆と共有したいと心底、願って

いたんです。

楽器としての「地位向上」を目指そうとしたんでしょうか…。

「地位向上」だなんて、何だか偉そうで、そんな感じじゃないんです。今思えば、「何でも演奏しますから、コンサートをさせて下さい。お願いします!」という、どちらかといえば謙虚な思いで活動を始めたんです。それも昼間、真面目に訴えるだけでなく、夜、それこそ公演打ち上げの席でも、「ソロをたくさんやりたいんです」と繰り返し訴えました。今でもこのスタンスは変えてません。あれから30年余。サクソフォンのコンサートは以前に比べ、確かに増えました。でも、まだ普遍的な位置付けには至っていない。愛好家だけでなく、一般の方にも楽しんでいただけるコンサート作りを、もっとしていきたい。今でも模索を続けているのです。

公演内容を決める際、留意されていることは何ですか。

選曲には、いつも悩みます。地域や会場の特性も踏まえ、聴き手に楽しんでいただけるような選曲を、自分なりに考える。自分の姿勢を、主催者の方々にしっかりと示して賛同を得、一緒に頑張ってくださいよう、意思疎通を重ねることも欠かせません。同時に、自分にとって「挑戦」となるような、高い音楽性や演奏技術を要する作品を探し続けること。新しいレパートリーを常に披露できるよう、内外の作曲家に新作を委嘱して初演すること。そんなことをいつも意識して続けてきました。

新作委嘱は、藝大在学中の1980年、作曲科におられた先輩の伊藤康英氏に依頼された「シャコンヌ」が最初でした。

先輩からは、「サクソフォンにはまだ良いレパートリーが少ない。演奏家が開拓していかなければ」とアドバイスをもらっていました。自分の力で蓄積していこう。そんな思いで心を燃やし、今日に至っています。

以後、長生淳、本多俊之、西村朗、エドワード・グREGSON、マーティン・エレビーといった実に多様な作曲家と仕事を重ねてこられました。中でも特筆すべき作曲家を上げていただくとしたら？

吉松隆さん(\*2)の曲との出会いは、世界の奏者

に日本を知らしめる、素晴らしい機会となりました。特に、最初に吉松さんに委嘱して作曲いただいた「ファジイバード・ソナタ」(1991年)は海外でも出版され、国際的な人気があります。私はこれまで、何度も海外でマスタークラスをしてきました。レッスンの題材にこの曲を持ってくる若手がとても多く、ある時期は「ミスター・ファジイバード」と呼ばれたこともありました。その後、やはり吉松さんに委嘱して1994年に書いて頂いた「サイバーバード協奏曲」(オーケストラとサクソフォン版)も、今や国際的な人気曲になっています。昨年、吉松さんご本人の手により、この曲のピアノ・リダクション版が書かれました。今回のザ・フェニックスホール公演では、この曲も演奏予定です。

米国のマルチミュージシャン、チック・コリアの「Florida to Tokyo」も今回、取り上げられます。

この作品は今年出来たばかり。チック・コリアさんは言わずと知れたジャズ界の巨匠ですが、そんなチック・コリアさんに新しい曲を書いて頂けて本当に幸せです。サクソフォン界にまた新たな歴史を作る、すごい曲が誕生しました。10月に東京で初演を迎え、ザ・フェニックスホールでの演奏も大阪初演。さまざまなジャンルの音楽領域を自在に往還するチック・コリアさんならではの、音の世界を表現したい。

もう一曲、才気溢れるピアニストとしても知られるトルコの音楽家ファジル・サイの新曲も演奏されます。

演奏家、作曲家としてのファジル・サイさんの素晴らしい感性が、この曲にそのまま出ていると思います。彼の作品から私はいつも、人間の心の、奥深い所に潜んでいる真実を抉り出すような、深い精神性を感じます。東洋的な瞑想、民族的な踊り。エキゾチックな要素満載の素敵な曲想。魂に訴える素晴らしいフレーズに、必ず出会えます。ぜひ聴いてください。

(\*1) 対旋律 楽曲の中で、主旋律に対置される別の独立した旋律。主旋律を際立たせる機能を持ったり、それと対等の動きを果たしたりして、音楽総体を充実させる。

(\*2) よしまつ・たかし 1953年、東京生まれの作曲家。慶應義塾大学工学部中退。ほぼ独学で作曲を学ぶ。81年、ピアノと弦楽合奏のための書かれた「朱鷺によせる哀歌」でデビュー。以後、交響曲、協奏曲、ピアノ曲、ギター曲、「鳥」をテーマとする室内楽作品などを数多く創作。調性や、豊かなメロディを湛えた作風で知られる。執筆活動やラジオ番組の解説など広範な活動で親しまれている。



9月16日(金)  
10:00 受付開始  
ザ・フェニックスホール  
友の会優先予約

9月20日(火)  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

9月21日(水)  
10:00  
一般発売

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは9月23日(金)10:00から!

■レクチャーコンサートシリーズ28

2017年2月26日(日)

16:00開演 指定席  
一般¥3,000(友の会価格¥2,700)  
学生¥1,000(限定数)

出演  
伊東信宏(進行役:大阪大学教授)  
北住淳(ピアノ)、姫野真紀(ピアノ)

伊東信宏 企画・構成 レクチャーコンサート  
クルターグ・テント 『遊び』をめぐって

曲目 クルターグ・ジェルジ:『遊び』より  
「常曲」「手のひらで」「はずしても構わない」「花は人・・・」「散歩」「よたよた」「退屈して」  
「ウシガエル」「チャイコフスキー」「パガニーニ」「知性は自由にする」「影ふみ」「私の愛は」  
連弾曲 同じく『遊び』より  
「ヴェルディ」「めぐる歌-さえずり」「霧のカノン」「神の子羊」「シャルケジ」「ストラヴィンスキー」ほか

クルターグ・ジェルジは、1926年にルーマニアの地方都市に、ハンガリー語を母語とするユダヤ系の家族のもとに生まれました。ほとんど誰にも聴かれることも期待していないような、寡黙で、静謐で、それでいて苛烈な音楽は、単なる進歩とか技法の流行などを超えて、多くの人を惹き付け、今では彼は存命中で最も重要な作曲家の一人に数えられています。『遊び』というピアノのための作品集は、そんなクルターグが日記のように書き続けていたものです。たとえばドレミファソラシの7つの音がそれぞれ1回しか出てこない曲があります。ただし、それらの音は、様々な音域、様々なニュアンス、様々な長さで奏されねばならないので演奏はとても難しく、音楽というものの本来の姿について考えさせられます。今回の演奏会では、ブダペストでクルターグの室内楽のレッスンも受けられた北住淳さんと、パートナーであり優れたピアニストである姫野真紀さんに、このクルターグの『遊び』を中心とする作品を取り上げて演奏していただき、作品へのアプローチについてお話していただきます。ちなみにタイトルの「テント」とは、旅芝居のようにテントを張って、クルターグ作品の公演をしながら全国を回れたら面白いだろう、と北住さんたちと話し合ったところから来ています。ピアノをどうやって運ぶか、という問題はあるのですが、伊東信宏(大阪大学教授、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)



北住淳(きたずみ・あつし/ピアノ)

三重県立津高等学校、東京藝術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。ハンガリー国立リスト音楽院に留学。帰国後、愛知県立芸術大学大学院修了。八重口敬子、福井直俊、伊達純、ペーター・ショイモシュ、宇都宮淑子の各氏に師事。第1回マルサラ国際ピアノコンクール、第36回ヴィオッティ国際コンクールでディプロム受賞。津市文化奨励賞、三重県文化奨励賞受賞。1986年より現在までピアニスト、鍵盤楽器奏者、通奏低音奏者として多くのコンサートに出演。独奏リサイタル(津・四日市・名古屋・久留米)、協奏曲ソリスト、室内楽、声楽・合唱ピアニストなど、幅広い演奏活動をおこなっている。「トリオ・ミンストレル」ピアニスト。また、レクチャー講師、コンクール審査員などをつとめる。1993年より、愛知県立芸術大学音楽学部で後進の指導にあたっており、現在同大学教授。



姫野真紀(ひめの・まき/ピアノ)

奈良市出身。京都市立芸術大学を卒業、同大学大学院修了。在学中よりソロ、室内楽の演奏活動をおこなう。Holland Music Sessions、京都フランスアカデミー、浜松国際ピアノアカデミーなどに参加。日本演奏連盟主催によるリサイタルをいづみホールで開催。また、大阪ザ・フェニックスホールのエヴォリューションシリーズに選ばれ、コンサート「東欧幻想」を開催。岡田加津子、くりもとようこ、櫻井ゆかり各氏の作曲作品展で新作初演をおこなう。ソロ・リサイタルのほか、「1コイン・コンサート」、美術作品とのコラボレーション「聴くかたち 見える音」などのコンサートを開催。2015年「東京・春・音楽祭」でヤナーチェク作品を演奏。アンサンブル奏者として、多治見少年少女合唱団ほかの合唱ピアニスト、京都フランスアカデミー、いこま音楽祭などの講習会伴奏、弦楽器・管楽器のリサイタル共演者をつとめるなど、幅広い活動をおこなっている。柴田翠、岩淵洋子、古川五己、田原富子、阿部裕之、小坂圭太、北住淳、松村英臣の各氏に師事。



伊東信宏(いとう・のぶひろ/進行役:大阪大学教授)

1960年京都市生まれ。大阪大学文学部卒業、同大学院博士課程単位取得退学。リスト音楽院研究員、大阪教育大学助教授などを経て、現在、大阪大学文学研究科教授。文学博士。著書に『バルトーク』(中公新書、1997年、吉田秀和賞受賞)、『ハイドンのエステルハーゼ・ソナタを読む』(春秋社、2003年)。『中東欧音楽の回路 — ロマ・クレズマー・20世紀の前衛』(岩波書店、2009年、サントリー学芸賞、木村重信民族芸術学会賞受賞)など。ザ・フェニックスホールでは2002年度からレクチャーコンサートシリーズの企画・構成を担当。これまでに「ピアノはいつピアノになったか?」(2002年度~04年度 全8回)をはじめ、合計25公演に携わっている。2011年4月からあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー。

# Phoenix OSAQA 2017

日本を代表する弦楽四重奏団ジャパン・ストリング・クワルテットが指導!

## Open String Academy for Quartet Artists

弦楽四重奏を志す若者のための自由塾 来年3月開催

**弦楽四重奏公開マスタークラス&レッスン受講生、募集!**



国内トップ級のソリストでつくる実力派弦楽四重奏団「ジャパン・ストリング・クワルテット(JSQ)」を講師に迎え、審査で選ばれた若手の弦楽四重奏団を指導・育成、あわせて聴衆の拡大も図る教育・啓発事業「Phoenix OSAQA (Open String Academy for Quartet Artists 弦楽四重奏を志す若者のための自由塾)」を本年度も2017年3月に行います。

主軸はJSQメンバーによる楽曲レッスン。指導にあたるJSQが一貫して取り組んできたベートーヴェンの弦楽四重奏曲を題材とし、楽曲の真髄や合奏の妙を伝授、指導の模様を聴衆に公開します。最終日には、「修了コンサート」も公開で行います。学生からプロの方まで、弦楽四重奏を学ぶ意欲に溢れた皆様の、この事業への参加を募ります。

### ■開催日程

2017年3月

17日(金) 14:00 ジャパン・ストリング・クワルテット演奏会

18日(土)・19日(日) 弦楽四重奏公開マスタークラス

20日(月・祝) 受講生修了コンサート(公開)

■会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

■講師 ジャパン・ストリング・クワルテット

久保陽子(第1ヴァイオリン) 久合田緑(第2ヴァイオリン)

菅沼準二(ヴィオラ) 岩崎洸(チェロ)

■受講曲 L・v・ベートーヴェン作曲 弦楽四重奏曲より任意の1曲

第1番～6番 作品18-1～作品18-6

第7番～9番 作品59-1～作品59-3

「ラズモフスキー第1番～第3番」

第10番 作品74「ハーブ」

第11番 作品95「セリオソ」

第12番 作品127

第16番 作品135



■受講料 無料 [17日のジャパン・ストリング・クワルテット

公演チケット(¥1,000)の購入が必要です]

■応募締切 **12月2日(金)必着** 応募資格など詳しくは、チラシかホームページ <http://phoenixhall.jp/> をご覧下さい。

■お問合せ ザ・フェニックスホール事務局 TEL 06-6363-0211

## ホール主催・協賛公演チケットのお申込み方法

# 06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
- ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・主催公演1公演につき会員1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申し付けください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
- ・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

- 一般発売
- ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

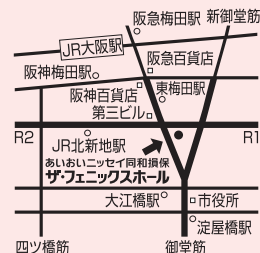
# <http://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約(主催公演のみ)
- ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

### 直接のご来店による お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



**チケットお申込み後のお受け渡し方法** 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

**振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール**

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

発売中

協賛公演 「関西音楽人クラブ」がんばれ!熊本 熊本地震被災地支援コンサート2016

2016年11月1日(火) 18:30開演 自由席 一般前売・当日 ¥3,000(友の会価格¥2,700) 制作 大阪アーティスト協会

出演 小谷妙子、櫻井孝子(以上ソプラノ)、石井理子(ハープ)、新 暁子(クラリネット)、平岡洋子(フルート)、西村恵一、木田雅子(以上ヴァイオリン)、白木原有子(ヴィオラ)、後藤敏子(チェロ)、北川恵美、砂川 恵、伊原敏行、星 裕子、木下千代、中村勝樹(以上ピアノ)、山中由美子、山中美智、佐久間 優(以上ギター)

曲目 カッチーニ:アヴェ・マリア ポール・リード:ヴィクトリアン・キッチン・ガーデン組曲 ダマーズ:五重奏曲 作品2より 第1楽章  
 ヴィターリ:シャコンヌ ト短調 ベルナルド・ピリス:ルーン ラヴェル:マ・メール・ロワより  
 モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」より“愛の神よ、安らぎを与えたまえ”  
 カプースチン:8つの演奏会用エチュード 作品40より ブラームス:ハンガリー舞曲集より

11月に3つのコンサートホールで、多彩なプログラムで個性溢れる音楽の数々をお届けします。関西の音楽人として、何ができるのか…。音楽を通して少しでも被災地の支援ができるような取り組みを続けたいと思います。あの阪神淡路大震災を体験した私たちならではのやり方で。いまこそ、出番です!  
 (関西音楽人クラブ代表:日下部吉彦)

発売中

協賛公演 センチュリー室内楽シリーズ Vol.1 主催 公益財団法人日本センチュリー交響楽団

2016年12月2日(金) 13:30開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600)

出演 小山実稚恵(ピアノ)、荒井英治、松浦奈々(以上ヴァイオリン)、丸山 奏(ヴィオラ)、北口大輔(チェロ)

曲目 ハイドン:ピアノ三重奏曲 第25番 ト長調Hob.XV:25「ジプシー・トリオ」  
 弦楽四重奏曲 第40番 ヘ長調 作品50-5 Hob.III:48「夢」  
 シューマン:ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44



日本センチュリー交響楽団がザ・フェニックスホールにおいて、このたび開催いたします「室内楽シリーズVol.1」は、2015年度にアーティスト・イン・レジデンスに就任した小山実稚恵さんと楽団員とがより密接に音楽を創造することをコンセプトに、ピアノ協奏曲とは違った魅力を室内楽を通じて楽しんでいただくものです。メンバーはアーティスト・イン・レジデンスの小山実稚恵さんに加え、当楽団首席客演コンサートマスターの荒井英治、同コンサートマスターの松浦奈々、同首席ヴァイオリン奏者の丸山奏、同首席チェロ奏者の北口大輔が出演しハイドンとシューマンの室内楽曲を演奏します。今後は室内楽シリーズとして日本センチュリー交響楽団のメンバーを中心に定期的に開催していく予定です。

発売中

協賛公演 東 誠三 ピアノリサイタル 主催 オランジュの会

2016年12月18日(日) 14:00開演 自由席  
 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050) ※友の会割引は1会員2枚まで。

出演 東 誠三(ピアノ)

曲目 J・S・バッハ=ヘス:主よ、人の望みの喜びよ  
 モーツァルト:「ねえお母さん聞いて」の主題による変奏曲 八長調 K265  
 ベートーヴェン:ピアノソナタ 18番 変ホ長調 作品31-3  
 リスト:巡礼の年 第2年「イタリア」から ペトラルカのソネット 第47番、第104番、第123番  
 アルベニス:組曲「イベリア」より 第4集 マラガ・ヘレス・エリターニャ



東誠三の演奏は、楽譜をあたかもビス一本にいたるまでバラバラに分解し、その上で自分の解釈と哲学を入れ組立て直す。その結果、何処にも隙が無く、冗長と聴こえるような部分でも緩みのない音楽となり、深い感動を与えてくれる。まさに東京藝大教授で円熟期を迎えつつある演奏家の真骨頂である。今年で8回目となる恒例の大阪での演奏会は東の持つ叙情性と色彩豊かな音色に相応しい曲目が選ばれた。組曲イベリアは滅多に聴くことが出来ない難曲で、聴き逃せない。

## 改修工事に伴うホール休館のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、2018年(平成30年)に舞台機構や照明設備、空調設備等の改修工事を施工することとなり、その間を休館させていただくこととなりました。

この工事は、今後の不具合発生の防止や設備機能維持向上のための重要な工事となります。

つきましては、ご利用の皆様には、ご不便、ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### ◆ 休館期間 ◆

2018年(平成30年)1月25日(木) ~ 2018年(平成30年)4月30日(月・振休)

〈お問合せ先〉 〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー内  
 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール TEL:06-6363-0311(代表) (土・日・祝を除く平日9:00~18:00)

# 伊東信宏 企画・構成 声のような音／音のような声 三輪眞弘作品集

三輪眞弘という作曲家をひとことで紹介するのはとても難しい。音楽というジャンルには収まり切らないほど、その表現方法はあまりに独創的で多岐に渡っている。そして作品の国際的評価は非常に高く、ルイジ・ルッソ国際音楽コンクール第1位、芥川音楽賞受賞、メディアアート界の最高峰、アルス・エレクトロニカのデジタルミュージック部門にてゴールド・ニカ賞(グランプリ)を受賞するなど、現代音楽／メディアアート・シーンにおける最重要人物の一人である。

しかし、その華々しい受賞歴だけで判断できるほど三輪作品の世界は甘くない。誰も辿り着けないような深淵を覗き見せられたかと思うと、次の瞬間にはその卓越なるユーモアで全てを煙に巻かれてしまう。そんな掴みどころのない感覚こそが真骨頂なのである。

三輪作品は非常にロジカルに作られており、即興演奏とはまるで違う。しかしながら一見してよくわからない場合が多い。それは架空の民俗音楽であったり子供の遊びのようであったりする。そして、その奇妙な法則性から導き出される音の羅列がどこにもない物語を紡ぎだすのである。

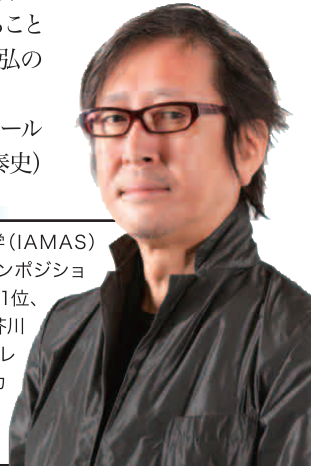
作品にいざ身を委ねてみると、反目していた世界がおぼろげながらゆっくりと開けてくるのがわかる。そしていつの間にか、開かずの金庫の錠前のダイヤルがゆっくりと動き出し、カチリと嵌ったような瞬間が訪れるのだ。開けてみると、中には未知なる価値という黄金が我が物顔で鎮座しており、我々の脳を快樂で満たすのである。

今回のレクチャーコンサートでは、三輪眞弘作品集と銘打つように、そのエッセンスを十分に堪能していただけるはずだ。例えば、近年の活動で注

目を集めている「フォルマント兄弟」。フォルマント兄弟は、三輪眞弘と佐近田展康(音楽家／メディアアーティスト)によるユニット名である。MIDIキーボードをインターフェース(入力装置)にし、リアルタイムで「声」を合成するというパフォーマンスを追究しており、現在はMIDIアコーディオンを使用し、なんとリアルタイムで「歌」を合成して演奏するという驚愕のパフォーマンスを披露する。

また、今回のメインとして、次年度に上演予定のモノローグオペラ「新しい時代」からいくつかの曲を演奏する。このオペラは2000年に発表された作品で、当時の世紀末的な混沌とした状況の中で生み出された。4人のキーボード奏者とソプラノ歌手によって演じられ、小型のプロジェクターに映し出された楽譜から生成される電子音響的空間に、カメラ映像や映像素材を投影する映像システム、ビデオ・ディレイシステム等、特別に開発された専用システムが複合的に重なり合って表現される。複雑で錯綜するネットワークそのものがこのオペラの本質なのである。このオペラの様々なヴァリエーションや断片が演奏される。今回はレクチャーコンサートなので、作曲家自ら作品の解説を行うことになっている。システムやアルゴリズムから導き出された、なんとも不可思議な作品世界が生み出された状況や、思考の痕跡が明らかになることだろう。未知なる音楽への挑戦を続ける三輪眞弘の世界を是非とも体験して欲しい。

(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール  
チーフ・マネージャー 宮地泰史)



「声のような音／音のような声 三輪眞弘作品集」は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザーの伊東信宏(大阪大学教授=音楽学)企画・構成。講師は、三輪眞弘(情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授)、ソプラノの丸谷晶子、MIDIアコーディオンの岡野勇仁、チェンバロの山名敏之、フォルマント兄弟(三輪眞弘+佐近田展康)、合唱のOrphe Choirs、キーボードの大阪大学有志が出演。2016年12月25日(日)午後4時開演。入場料3,000円(指定席)、友の会2,700円。学生1,000円(限定数)。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみ取り扱い。

三輪眞弘 (みわ・まさひろ/情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授)作曲家。コンピュータを用いたアルゴリズム・コンポジションと呼ばれる手法で数多くの作品を発表。第10回入野賞1位、第14回ルイジ・ルッソ国際音楽コンクール1位、第14回芥川作曲賞、2007年「逆シミュレーション音楽」でのアルス・エレクトロニカ・デジタルミュージック部門のゴールド・ニカ賞(グランプリ)をはじめ、2010年に度芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)を受賞。

## フェニックス・エヴォリューション・シリーズ 2017年5月から2018年1月までの4公演が決定!

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、あいおいニッセイ同和損保保険株式会社が芸術文化支援(メセナ)活動の拠点として設置、運営している音楽ホールです。優れたアーティストによる自主企画公演を開催する一方で、発表の機会を探っておられるアーティストの方々に呼び掛け、個性溢れる公演にこのホールを活用いただくことも重要な事業と位置付けています。「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」は、プロ・アマを問わず、音楽を愛するみなさまから公演の企画を募り、審査を経て選ばれた方々にホールと付帯施設を無料で提供しています。今回で募集は21回目となりました。2017年5月から2018年1月までの4公演の枠に、国内外から27編のご応募をいただきました。去る7月23日に選考検討会を開催し、識者の方々のご意見を伺ったあと、さらにザ・フェニックスホールで選考を進めた結果、4編の企画を入選と致しました。

今年の選考アドバイザー  
(五十音順)

大久保 賢様 (音楽評論家・音楽研究家)  
谷辺 晃子様 (朝日新聞社生活文化部記者)

竹内 有一様 (京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター准教授)  
淵上 えり子様 (読売新聞東京本社編集局 文化部記者)

2017年5月17日(水)

### 左手のピアノ 音楽史編纂プロジェクト ～バッハを中心とするバロック時代編～

■出演 智内威雄、有馬圭亮(以上ピアノ)、田中博幸、山中哲人、長谷部瑞季、石坂真帆(以上編曲) ■曲目 J・S・バッハ:左手のための小前奏曲集「左手のアーカイブ」プロジェクト編曲・制作、J・S・バッハ(ヴィトゲンシュタイン編):シャコンヌ

2017年10月4日(水)

### Alma Española en Japon (～スペインの心を日本で～)

■出演 谷本綾香(メゾソプラノ)、ホセマリア・ガジャルド・デルレイ(ギター) ■曲目 フェデリコ・ガルシア・ロルカ:古いスペイン民謡集、ホセマリア・ガジャルド・デルレイ:人生の歌曲集 ほか

2017年7月8日(土)

### 「イマジナリー・シアター ～チェンバロ劇場～」

■出演 濱田あや(チェンバロ) ■曲目 J・S・バッハ(スキップ・センペ編):無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 二短調 BWV1004より「シャコンヌ」、J・デュフリ:三美神、シャコンヌ ほか

2018年1月24日(水)

### 近現代フランスのエスキス、エスパス、エスプリ

■出演 前田裕佳(ピアノ) ■曲目 ドビュッシー:『ベルガマスク組曲』より「月の光」、H・デュティユ:レゾナンス ほか

# アンサンブルと私、そしてザ・フェニックスホールのこと —藤井 快哉



Keizo Matsui

2003年度のフェニックス・エヴォリューション・シリーズでヴァイオリンとピアノによるデュオの企画を採用していただいたのがご縁で、ザ・フェニックスホールとも長いおつきあいになります。当時は留学を終えて間もなく関西の音楽事情から疎くなっていた私をホール関係者の皆様が手取り足とりアドバイスをくださり、残暑厳しい8月の公演を大きな背面のガラススクリーン越しに涼やかに終演まで導いていただいたのを昨日のように思い出します。

アンサンブルとは二人以上が同時に演奏することですが、それに魅せられたのは大阪音楽大学4年生の時でした。ピアノは一人でも演奏が成立する楽器ですから、極端に言えばソロの膨大なレパートリーだけ演奏していても十分幸せに暮らしていけます。しかしピアニストの中には、たまに大人数は苦手だけれども寂しがり屋という人種もおり、そんな面倒なタイプには「なあなあ、藤井っちも一緒にブラームスのピアノ四重奏やってみいひん？」という何気ない一言が、運命の誘いに聞こえたりするものです。嬉々として練習に参加し始めた私は、卒業年度だというのに進路も微妙に決めかねたまま、大学のオーケストラ棟のラウンジへ通うようになりました。管弦打楽器専攻の友達と話す音楽の内容は、目から鱗の連続でした。それらが今でもピアノを演奏する時の言語の礎になっています。

ザ・フェニックスホールが開館したのはその一年後、どっぷりと室内楽の魅力におぼれていた頃です。開館シリーズで、後に留学時代の恩師となるピアニストの練木

繁夫さんがヴァイオリニストの渡辺玲子さんやチェリストの向山佳絵子さんと縦横無尽に音のキャッチボールを楽しむ様は、このホールで演奏する夢を与えてくれました。その後は練木先生が長らく教鞭をとっておられたインディアナ大学へ。広大なアメリカのド田舎で室内楽の巨匠のもと、キャンパスライフをエンジョイしました。今でもその時の仲間はずっと付き合いが続いており、Collage Pianoというグループ名でピアノアンサンブルの活動もしています。

帰国して2年後に既述のエヴォリューション・シリーズ公演をさせていただいてからは、おかげさまで様々な演奏会に出演させていただいております。そして今年はいよいよソプラノ歌手・石橋栄実さんとの共演！実は私、石橋さんの大ファンです。お話をいただいた時は、二つ返事で引き受けさせていただきました。11月の公演が今から楽しみでなりません。ある時はオペラハウスのオーケストラピットから壮大な背景を描くように、またある時はギターを爪弾き寄り添うように音を紡いでいけたら…、と妄想は膨らむばかりです。

40歳を過ぎてから一念発起してザ・フェニックスホールで始めた毎年のソロリサイタルも、今年で4年目になります。昨年に引き続き、オール・ショパンでプログラムを組んでみました。アンサンブルを続けていると独奏作品が多いショパンから必然的に遠のくので、年に一度はソロの世界に身を投じてショパンの甘く切ない世界に浸ってみようと思います。12月20日(火)、クリスマス前のひと時、どうぞ足をお運びください。

藤井快哉(ふじい・よしき)/ピアノ

大阪音楽大学卒業。同大学院修了。インディアナ大学アーティストディプロマ課程修了。国内外のコンクールに入賞。帰国後は、協奏曲やリサイタルのソリストとして、またリサイタルの共演者や室内楽奏者として、関西を中心に全国各地の演奏会に出演。ソロとアンサンブル双方の手腕を評価され、(財)兵庫県芸術文化協会より坂井時忠音楽賞、兵庫県芸術奨励賞を受賞。井上麻子(サクソフォン)×藤井快哉DUOが評価され、(財)サントリー芸術財団より佐治敬三賞、神戸灘ライオンズクラブ音楽賞を受賞。大阪音楽大学准教授。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL.06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2016年9月  
発行 あいおいニッセイ同和損保  
ザ・フェニックスホール  
編集 吉元 晃  
デザイン 松井桂三 有限会社

